

素案

アジェンダ 21 ながの —環境行動計画— 2023



令和5(2023)年 6月
ながの環境パートナーシップ会議

目 次

はじめに

- 1 アジェンダ 21 ながの 1
 - (1) ながの環境パートナーシップ会議とは 1
 - (2) 策定・改定の経緯 2

第 1 章 わたしたちのめざすもの～長野市の環境ビジョン～

- 1 長野市の環境ビジョン 4
- 2 環境ビジョンを実現するために 5

第 2 章 理想の街にむけて～これまでの振り返りと今後の展望～

- 1 ながの環境パートナーシップ会議の 4 年間の活動と今後の展望 . 7
 - (1) ながの環境パートナーシップ会議の 4 年間の活動 7
 - (2) ながの環境パートナーシップ会議の今後の展望 13
 - (3) 各プロジェクトの 4 年間の活動と今後の展望 17

第 3 章 パートナーシップで進める

- 1 ながの環境パートナーシップ会議の推進体制 32

- 資 料 33

はじめに

1 アジェンダ 21 ながの

(1) ながの環境パートナーシップ会議とは

1992（平成4）年にリオ・デ・ジャネイロで開催された地球サミット（国連環境開発会議）で採択された「アジェンダ21」では、持続可能な開発に向けた地方公共団体の行動計画「ローカルアジェンダ」を策定するよう求められました。これを受けて、世界中のたくさんの国と地域でローカルアジェンダの作成が行われました。

長野市においても1997（平成9）年に「長野市環境基本条例」が制定され、それに従い「長野市環境基本計画」が2000（平成12）年に策定されました。

ここでは、長野市の環境施策を総合的かつ計画的に推進して、望ましい環境像の実現を目指すとしています。そして、その実現のために、2001（平成13）年に「ながの環境パートナーシップ会議」が組織されました。

「ながの環境パートナーシップ会議」の当初の目的の一つとして、活動指針ともなる、長野市のローカルアジェンダを作成することがありました。幾度も話し合いを重ねる中で、2002（平成14）年に「長野市環境ビジョン」、2003（平成15）年に「アジェンダ21ながの一環境行動計画」を制定しました。以降は、ビジョンならびにアジェンダの実行組織として今日に至っています。

この会議の特徴はパートナーシップの名が示すように市民・事業者・行政の協働により運営されてきたことにあります。現在でも、それぞれの立場を理解しながら、協働して活動を進めています。

(2) 策定・改定の経緯

「アジェンダ 21 ながの」は、こうした経緯を経て長野市版のローカルアジェンダとして 2003（平成 15）年に策定されました。その後、2007（平成 19）年にはプロジェクトの見直しによる改定が行われ、その後、環境に関する諸課題が大きく変化してきていることから、2013（平成 25）年に再度の改定を行いました。

地球温暖化の深刻化や放射能汚染の発生など、環境問題の様相も変化していく中で、世界では、2015（平成 27）年 9 月に、アメリカ合衆国・ニューヨークで開催された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、人間や地球の繁栄のため 2030 年までに達成すべき行動計画として掲げたものです。この目標が「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals 略して SDGs（エスディージェーズ）」であり、これまでのアジェンダ 21 やミレニアム開発目標（MDGs）などの理念と成果を土台に、豊かさを追求しながら地球を守ることを呼びかける 17 の目標と 169 の行動計画で構成され、環境問題と経済発展を両軸に、先進国、発展途上国を含めた全ての国々に持続可能な世界に向けての変革を求めています。また、同年 12 月、フランス・パリで開催された COP21 において、京都議定書以来 18 年ぶりの新たな法的拘束力のある「パリ協定」が採択され、「産業革命前からの平均気温の上昇を 2℃より抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求する」という世界共通の長期目標が定められました。

2018（平成 30 年）に行った 3 度目の改定では、この「パリ協定」及び「2030 アジェンダ」の目標達成の一助となるよう、これらの趣旨を踏まえて見直しを行いました。

改定後もエネルギーの供給、食料の分配など、環境問題の様相も引き続き変化しています。同年 12 月にはスペイン・マドリードで COP25 が開催されました。また、長野県では「気候非常事態宣言—2050 ゼロカーボンへの決意—」を宣言し、長野市もこれに賛同しています。

2019（令和元）には、軽井沢町で G20 エネルギー・環境大臣会合が開催され、長野県も「持続可能な社会づくりのための協働に関する長野宣言」を行いました。

2021（令和3）には、イギリス・グラスゴーで COP26 が開催され、パリ協定のルールブックを作成し、世界の平均気温の上昇に関する目標を 2℃から 1.5℃に抑えることが採択されました。

2022 年（令和4年）、エジプトのシャルムエルシェイクで COP27 が開催されました。地球温暖化の悪影響を最も受けている途上国の「損失と損害」に特化した基金の設置が合意された一方で、その詳細やルール、そして 1.5℃目標への取り組み評価方法や進捗確認方法など、具体的なことは決まりませんでした。

こうした中で、ながの環境パートナーシップ会議としても、引き続き市民・事業者・行政が協働して、地域から地球規模につながる環境保全活動を推進するべく、2022（令和4）年に施行された「第三次長野市環境基本計画」を踏まえ、この度4度目のアジェンダ改定を行うものです。

第1章 わたしたちがめざすもの

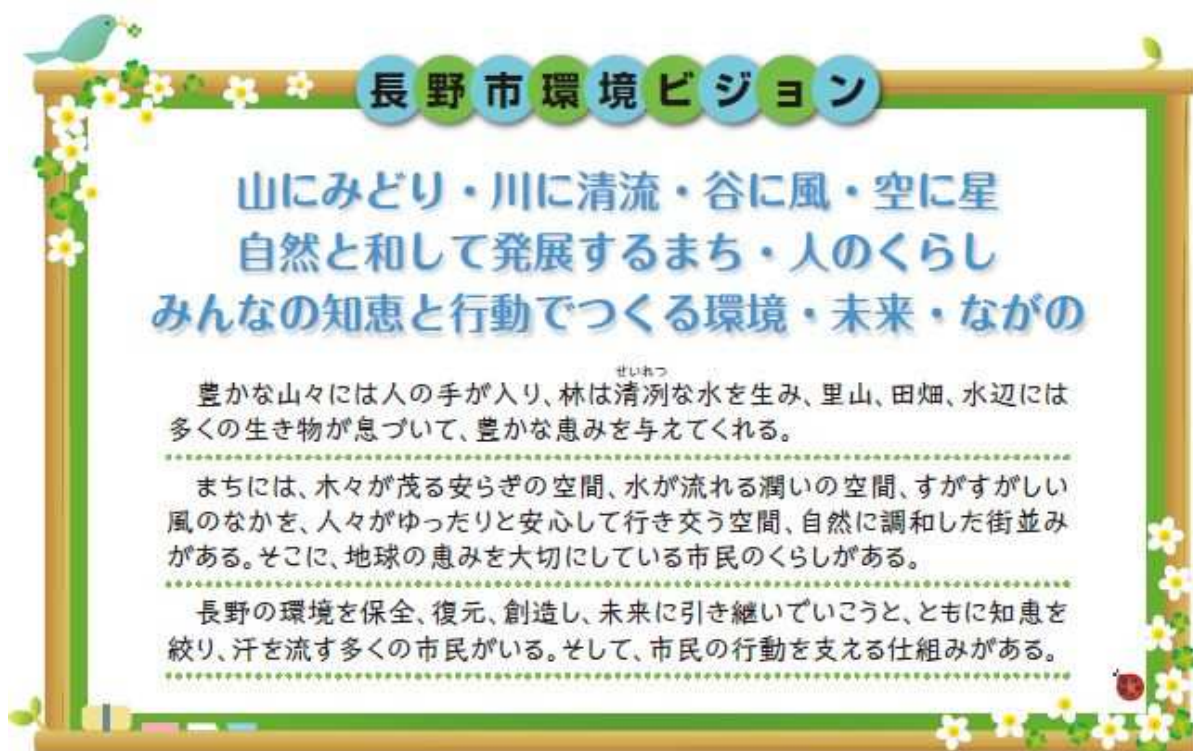
～長野市の環境ビジョン～

長野市の将来の姿がどのような姿であればいいのでしょうか？

市では、2017（平成29）年3月、目指すまちの将来像の実現に向け、新たな行政運営の指針として「第五次長野市総合計画」（本市の最上位計画）を策定しました。この計画の環境分野で策定されている第三次長野市環境基本計画やアジェンダ21ながのなどは、長野市総合計画を補完するものとして位置付けられており、アジェンダ21ながのの中で市の目指すまちの将来像や環境の視点でその姿を考え、「長野市の環境ビジョン」として以下の姿を提案しています。

このビジョンは、長野市に住んでいる人のほか、長野市で働く人、長野市を訪れる人や事業者などに、環境関連の活動の方向性を示すものとして多くの方の参加・協力を得て、実現を目指します。

1 長野市の環境ビジョン



こんなほっとするまち「ながの」を私たちは目指します。

ここでは、自然と人間の共存を軸に長野市の理想の環境像が描かれています。豊かな自然は、私たちの生活に様々な恵みをもたらしています。この環境を将来に渡って引き継いでいくこと、自然と調和した社会生活やまちづくりを推進すること、そして環境への配慮が持続性を持つよう今後も英知を集結することが、長野市に暮らしている私たち一人一人に求められています。

2 環境ビジョンを実現するために

「ながの環境パートナーシップ会議」では、環境ビジョンの実現を目指し、複数のプロジェクトを実行しています。

プロジェクトは、個々に独立して取り組みを実施しますが、環境ビジョンの実現を目指す体系の中では、「自然」、「生活」、「未来」という3つのテーマの下にそれぞれが位置付けられています。

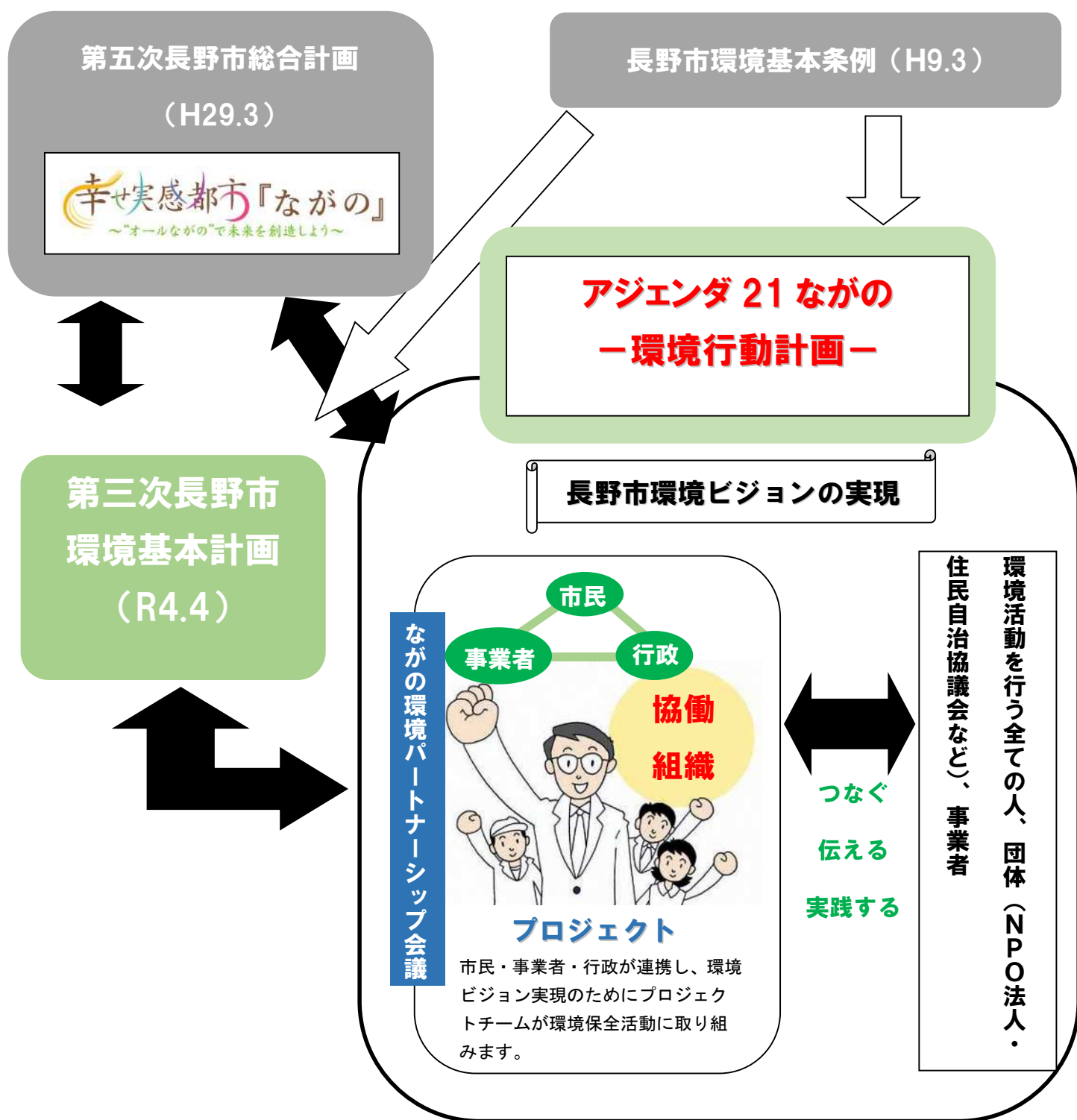
現在、「ながの環境パートナーシップ会議」では、複数のプロジェクトが実行されていますが、会員の高齢化等により活動を休止・解散するプロジェクトもあり、活動縮小の傾向が続いています。一方で、市民意識の高まりや科学技術の進化など時代の変化とともに、実行すべき新たなプロジェクトも発生してくるものと思われます。

そこで、「ながの環境パートナーシップ会議」では、一緒にプロジェクトに取り組んでいただける方を幅広く受け入れるとともに、活動に取り組んでおられる方々の支援を積極的に行っていきます。同時に、自由な発想で、楽しみながら取り組めるプロジェクトの提案を積極的に受け入れていくこととします。

このように「ながの環境パートナーシップ会議」では、環境問題に関わる人や団体を結び（つなぐ）、情報を共有（伝える）し、共に活動（実践する）する役割を担うことにより、環境保全に向けたネットワークを築き、地球規模の環境問題へと視野を

広げながら、地域から地球規模に広がる環境保全活動を推進し、環境ビジョンの実現を目指していきます。

アジェンダ 21 ながのー環境行動計画ー2023 概念図



第2章 理想の街に向けて

～これまでの振り返りと今後の展望～

1 ながの環境パートナーシップ会議の4年間(平成30年度～令和3年度)の活動と今後の展望

これまでの4年間の活動を振り返り、今までの成果と今後の展望をまとめました。

(1)ながの環境パートナーシップ会議の4年間の活動

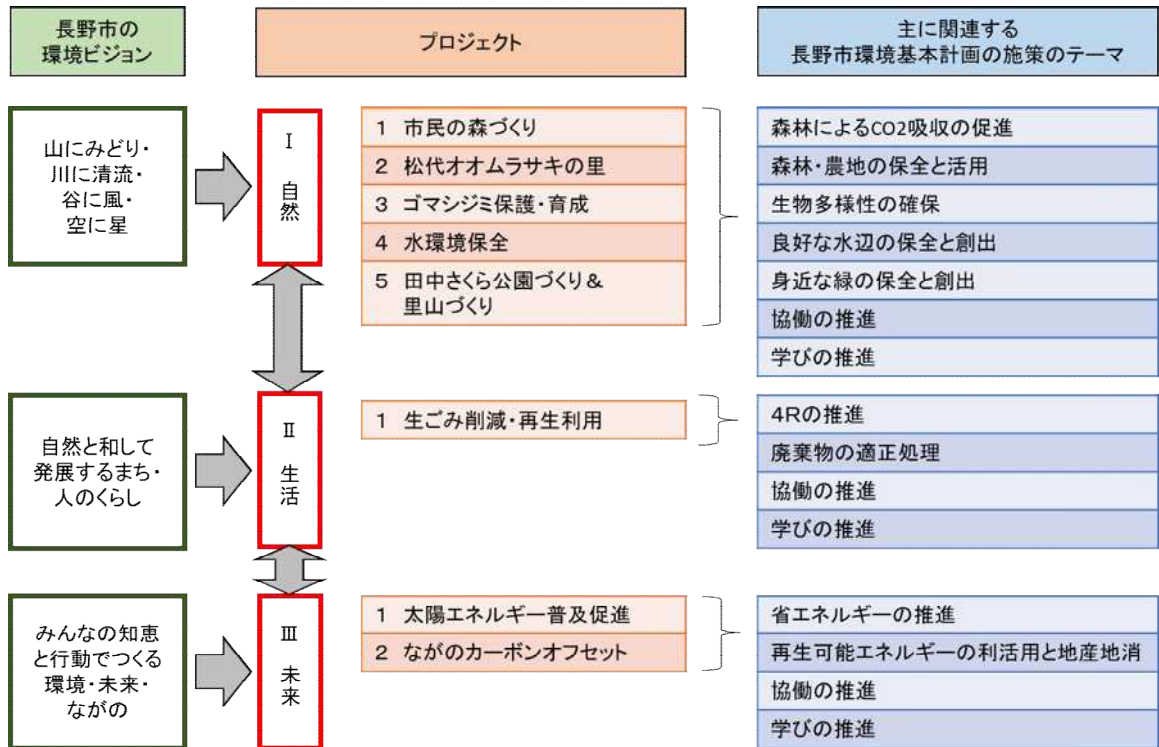
①全体の総括

持続可能な開発目標「SDGs」が広く普及し、環境問題に対する関心が高くなっていく一方、それを実践に移すことは困難が伴います。「ながの環境パートナーシップ会議」でも活動の続けていくことの難しさを実感する4年間となりました。

2019（令和元）年度に発生した令和元年東日本台風では、生ごみプロジェクトのキッズ生ごみ農園が浸水、市民の森プロジェクトのボブスレー・リュージュパークの森では倒木等、私たちの活動フィールドが大きな被害を受けました。2020（令和2）年に入ると、新型コロナウイルス感染症が拡大し、活動の大幅な縮小を余儀なくされました。大規模な体験会や講習会などの開催が難しい中ではありましたが、民間団体の助成金を活用し台風被害からの復旧を行ったり、感染拡大防止策を実施したうえでイベントを実施したりと、各プロジェクトが手探りでできることに取り組んできました。

現在、複数のプロジェクトが休会となっており、全体的な高齢化や後継者不足も引き続き大きな課題です。これまで活動紹介や、新規会員勧誘の場となっていた「ながの環境団体大集合」や各種環境イベントが台風や新型コロナウイルスの影響で軒並み中止となり、思うように活動力の確保ができませんでした。

ビジョン・プロジェクト体系図



ながの環境パートナーシップ会議では、上記プロジェクトを実施しています。

長野市環境ビジョンの実現を目指していくためには、既存プロジェクトの活動をより一層活性化していくと同時に、特に「生活」「未来」のテーマについて、新規プロジェクトを立ち上げ、活動を活発にしていく必要があります。

コロナ禍により移動や集合が制限され、人々のつながりがますます希薄になっていく中で、20年前に私たちが提案した、市民・事業者・行政の協働（パートナーシップ）により環境問題の解決に向けて取り組んでいくという理念の実現は、今、まさに正念場を迎えているといっても過言ではありません。

ながの環境パートナーシップ会議は、対価を求めない多くのボランティア活動によって支えられています。今後は、長野市の環境活動のプラットフォームを目指して必要な改革を進めるとともに、安心してボランティア活動に参加できるような体制の構築を検討、実施していきます。

②シンボル事業の実施と各種団体事業の支援

1 ながの環境団体大集合

ながの環境パートナーシップ会議のシンボル事業として、2012（平成24）年度から毎年度開催されています。「環境活動を次世代につなぐ・伝える」をテーマに、若者の皆さんや環境団体、企業、学校相互の交流・協働のきっかけになることを目的に開催されました。2019（令和元）年度および2020（令和2）年度は中止となり、2021（令和3）年度はオンラインにて開催しました。



2 ライトダウンキャンペーン

ながの環境パートナーシップ会議が参画していたライトダウンながの実行委員会が、広く市民に対して日頃いかに照明を使用しているかを実感してもらいながら省電力を呼びかけ、地球温暖化問題について考えてもらうことを目的に2008（平成20）年から開催。このキャンペーン期間中には、各家庭、事業所などになるべく電気を消してもらおうよう呼びかける運動をもとにキャンドルナイトコンサートを開催していました。

2020年（令和2）年度をもって 実行委員会が活動を終了しました。



3 アレチウリ駆除

豊かな環境づくり長野地域会議の事業（美化活動）の一環として、水辺の生態系を攪乱する外来植物「アレチウリ」を駆除する活動が実施されてきました。ながの環境パートナーシップ会議は、この趣旨に賛同し、2016（平成28）年度から「アレチウリ駆除事業」に参加していましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により、未実施となっています。



4 水環境全国一斉調査

河川をはじめとする身近な水環境に対する市民の意識の高まりを受け、2004（平成16）年から毎年、全国各地で世界環境デー（6月5日）に最も近い日曜日を中心に全国一斉水環境調査が実施されています（長野市では、NPO法人みどりの市民が主催）。ながの環境パートナーシップ会議では、2017

（平成29）年度からこの趣旨に賛同し、「身近な水環境の全国一斉調査」に参加していましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により、未実施となっています。



5 信州大学工学部 地域環境演習

工学部学生を対象とした選択科目「地域環境演習」は、環境マインドをもつ人材の育成を目的として、平成19年度より開講されています。この授業では、受講生が「ながの環境パートナーシップ会議」のプロジェクトチームに参加し、環境問題解決への取組を通して、「自らPDCAサイクルを機能させて行動できる」ことを目標としています。



6 山の日ウォーキング、山の日学習会

2017（平成29）年8月、山の日が制定されたことを記念し、山に親しむとともに自然の大切さや地域の歴史を理解してもらうため、市との協働により「山の日ウォーキング」を開催しました。その後も「山の日学習会」として、聖山や茶臼山といったながの環境パートナーシップ会議の活動フィールドで開催されてきましたが、2020（令和2）年度以降、新型コロナウイルスの影響により開催規模を縮小することとなり、協働を終了しました。



(2)ながの環境パートナーシップ会議の今後の展望

ながの環境パートナーシップ会議では、持続可能な社会を目指した環境保全を推進するため「つなぐ」「伝える」「実践する」活動に取り組むとともに、今後、環境保全のための私たちの役割は何かを見つめなおし、体制の刷新を含めて検討していきます。

① 市民・事業者・行政の参加と協働「つなぐ」

「ながの環境パートナーシップ会議」の活動は、市民・事業者・行政のパートナーシップによる協働によるものですが、今後も活動を推進していくためには、社会的な認知や各セクターの参加をさらに広げていくことが必要です。

今後は、こうした活動や成果について、各種イベントへの参加やフォーラムなどの開催を通じ、より広く発信することで「ながの環境パートナーシップ会議」の認知度を高め、市民や事業者などに参加を呼び掛けていきます。

また、プロジェクトチームが市の担当課と情報共有や協働をより円滑に行うことができるよう、必要に応じてマッチングを促進していきます。

② 時勢に見合った「シンボル事業」の検討「伝える」「実践する」

「ながの環境パートナーシップ会議」では、例年「ながの環境団体大集合」を開催してきましたが、2019（令和元）年度、2020（令和2）年度はイベントが中止となりました。2021（令和3）年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催したところ、遠方の人とつながったり、若い世代との協働が実現したりと、イベント開催について多くの気付きを得ることができました。

今後は「ながの環境団体大集合」の名前に囚われることなく、時勢に合ったイベントを、時勢に合った方法で実施していくことを検討します。

③ プロジェクトの着実な推進「実践する」

現在活動しているプロジェクトについては、これまでの成果や課題などを整理した上で、活動を継続するとともに、新たな活動の提案を会員から募集し、その提案を受けて、新しいプロジェクトの立ち上げを図ります。

プロジェクト活動の質を高め、量を増やしていくことで、全体の活性化を図っていきます。

④ 環境団体などの連携「実践する」

環境問題の解決には、「ながの環境パートナーシップ会議」のほか、環境活動に取り組んでいる地域や環境団体などと協働で取り組んでいくことも必要です。

信州大学工学部とは、「地域環境演習」により、学生を各プロジェクトチームで受け入れて環境保全活動を実施しています。この他にもライトダウンキャンペーンやアレチウリ駆除など様々な連携活動を実施していましたが、多くが新型コロナウイルス等により、活動休止や終了してしまいました。

今後も、このような環境保全活動に取り組む市民・事業者・行政などの交流により、互いの連携、協働につながる事業を継続的に開催し、「ながの環境パートナーシップ会議」の「つなぐ役割」を強化していきます。

⑤ 環境保全活動推進のプラットフォームとして

「つなぐ」「伝える」「実践する」

これまで示したとおり、環境活動を取り巻く周囲の状況は会議結成当初から大きく変わっています。また、ながの環境パートナーシップ会議自身も会員、プロジェクト、理事の減少が進み、活動が縮小を続けているのが現状です。

環境ビジョンの実現のためには、会員の活動はもちろん、ながの環境パートナーシップ会議の外で行われている活動との連携も必要不可欠です。そのためには、現在のビジョン・プロジェクト体系や推進体制を含めて、根本的に組織の在り方を見つめ直していく必要があります。

今後とも、ながの環境パートナーシップ会議が長野市の環境活動のプラットフォームであり続けるために、必要な構造改革に取り組みます。

⑥ ながの環境パートナーシップ会議の数値目標

ここまで挙げた今後の展望を実現していくために、ながの環境パートナーシップ会議としての目標、行動計画ならびに数値目標を以下のとおり設定します。



ながの環境パートナーシップ会議			
目標	市民・事業者・行政のそれぞれが適正に役割を分担しつつ、対等の立場で協力して、環境保全活動に取り組めるようにし、地域から地球に広がる環境保全活動を推進することにより、良好な自然環境と生活環境を将来の世代に引き継ぐこと		
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新アジェンダの推進、進捗管理 ・ながの環境パートナーシップ会議と各プロジェクトの連携強化により、「つなぐ」「伝える」「実践する」活動を充実させる。 ・市民、事業者、行政との役割分担の協働事業の推進 ・新規会員の入会促進 		
数値目標	指標	現状：令和3年度	目標：令和8年度
	ながの環境パートナーシップ会議への参加者数 (年間・延べ人数) ※第五次長野市総合計画及び 第三次長野市環境基本計画 と同じ数値目標	1,805人	4,000人
	ながの環境パートナーシップ会議の環境保全に関する取組件数 (年間取組件数)	238件	300件
	プロジェクト実施件数 (年間実施件数)	9件	15件

(3)各プロジェクトの4年間の活動と今後の展望

各プロジェクトは、私たちが目指す環境ビジョンの実現に向けて、プロジェクトごとに目的とする「理想の街」を掲げて環境保全活動に取り組んできました。これまでの取り組みを振り返りとともに、今後の行動計画と数値目標を設定しました。

プロジェクト	
I-1	市民の森プロジェクト 18-19
I-2	松代オオムラサキの里プロジェクト 20-21 (旧名：小生物の育成環境保全プロジェクト)
I-3	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト 22-23
I-4	生態系豊かな、水に親しめる川づくりプロジェクト 24-25 (水環境保全)
I-5	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト 26-27
II-1	生ごみ削減・再生利用プロジェクト 28-29
III-1	太陽エネルギー普及促進プロジェクト 30-31

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	市民の森づくりプロジェクト		
理想の街（目標）	四方を山に囲まれた長野市には、手入れされた里山がありそこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数 （年間・延べ人数）	900人	179人 （活動休止中）
	「市民の森」の設置数 （目標年度までに設置する数）	2	1
	「市民の森」として整備する面積 （目標年度までに設置する数）	10ha	4.5ha
活動実績	<p>「理想の街」に向けて成果のあったもの（具体的な活動実績など）</p> <p>(1) 市民の森づくり</p> <p>ア ボブスレー・リュージュパークの森の整備が進み、明るさを取り戻した森になってきた。また、市民がゆっくり散策のできる遊歩道の設置ができた。</p> <p>イ 「市民の森」という概念を多くの市民に持ってもらうことができた。</p> <p>ウ さまざまなイベントを実施し多くの市民に参加していただいた。</p> <p>エ 林業講座などは 300名近い受講生を輩出でき、より安全な整備活動が広まった。</p>		
できなかったこと	<p>(1) 第2、第3の「市民の森」構想が進んでいない。</p> <p>(2) 「市民の森」の維持管理に地元との協力体制が進みつつあるが、まだまだボブスレー・リュージュパークの森林部分の整備活動に地元との関わり合いは希薄である。</p> <p>(3) 「市民の森」にまつわる多くの可能性を引き出したり、活用したりできていない（カルチャー教室やサークル活動等）。</p>		
課題	<p>(1) 「ボブスレー・リュージュパークの森の整備」に力を注いだため、森の整備が進み、整備事業にある程度の結果が見えてきたため、会員のモチベーションの維持が難しくなっている。</p> <p>(2) 他団体との交流や、もっと多くの人材との接点が少ない。</p> <p>(3) 地元の人材育成につながっていない。</p> <p>(5) 事業者との連携が進んでいない。</p> <p>(6) 積極的に活動する会員が増えない。</p>		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		市民の森づくりプロジェクト	
理想の街	<p>四方を山に囲まれた長野市には、手入れされた里山がありそこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。人々はこの里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができるまち</p>		
標	<p>目標</p> <p>四方を山に囲まれた長野市には手入れされた里山があり、そこには多様な動植物が暮らす豊かな森がある。多くの市民は、この里山を利用し、楽しみ、未来につなげる自然の大切さについて学ぶことができる。そういう森を造っていく。</p>		
行	<p>行動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各作業の安全対策の再検討を実施し、より一層の安全作業に徹して、無事故・無災害を旨として作業を進める。 ・「市民の森」を楽しく利用しながら、森林整備、林業体験、自然観察会、山遊び、学習会を企画・実施し、市民に広める。 ・「市民の森」を市内に複数設置するための調査、折衝などを行う。 ・多くの他団体や、個人、事業者との連携を図り、事業を展開する。 		
動			
計			
画			
数	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	179人 (活動休止中)	600人
目	「市民の森」の設置数 (目標年度までに設置する数)	1	2
標			

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名		松代オオムラサキの里 (旧名:小生物の育成環境保全プロジェクト)	
理想の街(目標)	<p>身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・メダカ・クワガタ・カブトムシ)など生育しエドヒガン・ヤマモモが咲く豊かな自然環境の保全を目指すとともにオオムラサキ以外の小生物(ジャコウアゲハ・キアゲハ・アサギマダラ等)の生息環境を作る。</p> <p>また、「松代千本桜大作戦」を推進し松代全体を「マツシロベニエドヒガン」で覆い尽くす環境を目指す。</p>		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	1,000人	423人
	各種事業やイベントの開催数	10件	30件
活動実績	<ol style="list-style-type: none"> オオムラサキ観察会の実施 松代町内の小学校6校を対象にオオムラサキ観察会を実施した。また、一般向けの観察会も毎年実施している。 自然学習林に生息する生物の調査 学習林に赤外線センサーカメラを設置し、生息する動物を調査している。撮影した写真、動画データを解析し、生息状況を集計している。 カブトムシ・クワガタムシの育成 カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置した。令和2年にはカブトムシ50匹程の発生を確認した。 フクロウの巣箱設置 フクロウの生息が確認できたので、フクロウの定着を促すため巣箱を設置した。未だ営巣は確認されていない。 自然学習林の整備 オオムラサキが生息しやすい環境を維持するため、巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森になるように整備を行っている。 小学校にオオムラサキ育成エリア設置 松代町内の各小学校に生えているエノキにオオムラサキ育成エリアを設置し児童が随時観察できる環境づくりをしてきた。子供たちが関心をもつように、飼育エリアの拡充と定着を図る。 松代千本桜大作戦 マツシロベニエドヒガンを種から育苗し、松代町内を中心に苗の配布を行った。令和2年までに1,000本の苗の配布を完了した。 		
課題	<p>オオムラサキの生育環境の改善として水場を設置したいと考えており、ビオトープの作製を計画しているが、まだ実現できていない。</p> <p>オオムラサキ観察会には多くの人が参加してくれるが、それ以外は来園者は少なく1年と通して自然観察ができるような環境にはなっていない。</p>		
課題	<p>メンバーの高齢化により、里山整備作業が厳しい状況である。高齢者集団の中に若い人たちが参画しやすい組織のありかた、雰囲気作りに取り組む必要がある。</p>		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	松代オオムラサキの里 (旧名:小生物の育成環境保全プロジェクト)		

理想の街	身近な自然環境を守り後世に残すため、里山の小生物(オオムラサキ・カブトムシ・クワガタ)などの生育環境を再生し松代に自生するエドヒガン・野生モモが咲く豊かな自然環境の保全を目指す。オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築に努め啓発活動を進める。		
目	<ol style="list-style-type: none"> 1. オオムラサキが生息しやすい環境づくりを行い、オオムラサキの保護を行う。巨木になったエノキの間伐をして空間を増やし、光が入る明るい森にする。 2. オオムラサキを含めジャコウアゲハ・アゲハチョウ・キアゲハ・アサギマダラなどが自然に舞う環境の構築を行う。 3. カブトムシ・クワガタムシの育成床を設置し、生育しやすい環境づくりを行う。 4. センサーカメラを設置し、竹ノ入に生息する動物の調査を行う。危険動物を含め生息状況を把握し、自然観察園の構築に役立てる。 5. 生態系の頂点にいるフクロウの定着を促すため巣箱を設置する。 6. 各小学校のエノキを使いオオムラサキ育成エリアを設置し、児童がオオムラサキの成長を観察できる環境を整える。 7. 自然学習林を周回できる観察道の整備を行う。 		
行			
動			
計			
画			
数	指 標	現状: 令和3年度	目標: 令和8年度
値	多くの人が自然観察に訪れるように、自然学習林の環境整備を行う。	プロジェクト参加人数 423名	プロジェクト参加人数 1,000名
目	自然学習林を周回する観察道を設置する。	未実施(0%)	観察道の設置(100%)
標			






オオムラサキ観察会





オオムラサキ


これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	ゴマシジミ保護・育成プロジェクト		
理想の街（目標）	<p>「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさで体験できる環境整備」の推進を図っていく。</p>		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	450人	69人
	各種事業やイベントの開催数	10件	4件
活動実績	<ol style="list-style-type: none"> 1. 8月16日～9月5日 ゴマシジミ保護パトロール実施(密猟者対策として、早朝1時間2名体制) 2. 国、県環境保護関係者との合同会議(現地にて状況調査) 3. 地元浅川小学校にて、教師向けゴマシジミ生息についての講演会 4. 浅川小学校4年生のワレモコウ生育移植作業体験、及び生息地長野市霊園にて職員による移植作業 5. 浅川小学校4年、浅川チャレンジ(遠足)にて生息地霊園を訪問 		
できなかったこと	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶滅危惧種ゴマシジミの生息情報は、一般市民にはあまり知られていない。 2. ゴマシジミ生息、繁殖に対する対策は、手探りな状態である。 		
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絶滅危惧種指定のゴマシジミの保護育成の具体的な計画が必要。 2. メジャー的に知られる必要性と保護活動員の確保 3. 知られるが故、密猟者や観察者による、現地の環境の破壊も心配 		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名		ゴマシジミ保護・育成プロジェクト	
理想の街	<p>「元気なふるさと浅川を創生する」を目標に、浅川地区での地域資源の見直しと地域住民の意識の高揚を図り、地域活動への参画意欲を高めるため、浅川地区まちづくり計画を策定し、現在、各種事業を展開している。その事業の一環として地区内に生息が確認されている県指定希少種の蝶「ゴマシジミ」の保護・育成活動を地域住民と協働で実施し、「ふるさとの魅力を自然の豊かさで体験できる環境整備」の推進を図っていく。また、ゴマシジミ情報をより広く発信していきたい。</p>		
目標	<p>1. 温暖化による絶滅危惧種ゴマシジミの絶滅防止のための、保護、育成対策 2. 自然環境の見直しと、さらなる環境の向上(ワレモコウの増殖) 3. 人的な環境破壊の防止と対策(密猟者、現地環境変化への対応) 4. ゴマシジミ生息の重要性のアピールと保護活動の維持</p>		
行動計画			
画数	指標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
値	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	69人	100人
目	各種事業やイベントの開催数	4件	10件
標			
		 <p>ゴマシジミ</p>	 <p>密猟を防ぐための パトロール活動</p>

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクト (水環境保全)		
理想の街(目標)	自然豊かにして清らかな川は、天気土壌と動的均衡を保ち生物の多様性に潤った街		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	-		
	-		
活動実績	長野市主催の環境学習会水生生物調査「夏の川遊び」への協力		
できなかったこと	河川環境水質改善を行いホテルの舞う親水型河川づくりプロジェクトが行き詰まり、生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクトが休会になった。		
課題	生態系豊かな水に親しめる実行可能な川づくりプロジェクトに適合する事案の開発		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	生態系豊かな水に親しめる川づくりプロジェクト (水環境保全)		 
理想の街	自然豊かにして清らかな川は、大気土壌と動的均衡を保ち生物の多様性に満ちた街		
目標・行動計画	<p>目標:生物多様性に向けた水士壤環境の改善を行い、遷移した植相の復元。 行動計画:プロジェクト候補地の選出と承認。整備計画と作業工程の立案。</p>		
数値目標	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
	プロジェクト候補地の開発	1ヶ所	3ヶ所
	プロジェクト会員の増強	10人	30人



これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト		
理想の街（目標）	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に、里山を里山らしく利用・保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域づくり・協力し支え合う地域・まち（令和4年活動計画より）		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	-		
	-		
活動実績	<p>コロナ禍で地域（区、住自協、公民館等）各種交流行事が中止、或いは縮小の中、閉じこもり・引きこもりがちな生活で何か心に元気が無く、生活意欲の低下をもたらす中、桜公園祭りは続けると宣言し、桜公園祭り（桜公園の拡充・手入れ作業を主に、花と交流を楽しむ活動）を続けたが、これは地域住民にとっても明るい気持ちを呼び起こす活動となってきた。</p>		
できなかったこと	<p>コロナ禍の中でも継続したことで桜公園祭りの価値が見直されたが、一方で、内容的には一カ所に集めないことや、お互いの健康に配慮しての活動内容作業内容になったことで、第1回目2回目などと比較して自粛した部分があった。コロナ禍も次第に薄らぐ見通しもある中、活動内容の充実を図りたい。その一つとしては次年度から東屋の設置に取り組みたいこと。竹林を切り、桜を植え、より見応えのある桜公園にすること。</p>		
課題	<p>ある意味桜公園の活動は軌道に乗ってきた段階なので、桜公園も含めた里山のあり方に目を向けながら桜公園も含めて今後の夢・構想の意見交流をし、チームのあり方も今後に向けた内容に発展させることが課題と考える。</p>		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	田中さくら公園づくり&里山づくりプロジェクト		
理想の街	若槻地区田中の桜公園作りを推進力に、里山を里山らしく利用・保全を行う活動を展開することで、自然災害に強く、後継者も育ち定着する持続可能な地域づくり・協力し支え合う地域・まち		
標			
・			
行動計画	<p>[目標] 田中桜公園を中心に里山の利用を考え、田中桜公園も含めて里山の里山らしい利用拡大を目指す。 [行動計画]</p> <p>1. 数年掛けて竹林の伐採を進める。2. 2年掛けて東屋の設置を進める。3. 市観光課と協議しながら、里山の中腹に沿う水道道(三登山トレッキングコースの一部となっている)周辺の里山らしい利用整備と桜の植樹検討・推進</p>		
画数	指 標	現状: 令和3年度	目標: 令和8年度
値	桜公園拡大・環境整備のため竹林の伐採作業	桜公園隣接竹林の繁茂2カ所延べ80人	伐採の完了と管理、延べ100人
目	親しみやすい桜公園整備のため東屋の設置計画推進・設置作業	設置場所の選定済み。他は不確定	東屋の完成と利用促進。延べ200人
標			
			

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用プロジェクト		
理想の街（目）	1 市民一人一人が、地球環境をより良い形で後世に伝えるため、家庭系及び事業系のゴミの削減・再生利用に努め、CO2の排出量が以前と比べ大幅に減っているまち 2 地域ごとで多くの市民が、生ごみの減量化・再資源化について取り組み、有効活用しているまち 3 生ごみを可燃ゴミに出さず、全てリサイクルされ可燃ゴミは減少し、生命の循環を大切にしているまち		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値 (H29～R3)
	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	1,500人	3,411人
	可燃ゴミに占める生ごみの割合	35%	38%(R2)
活動	①長野市の可燃ごみに占める生ごみの割合は、2020年に38%(内10%が食品ロス)であり純粋な生ごみの割合としては既にクリアされたといえる。 ②生ごみ減量実践講座(生ごみ堆肥化とその利用講座)は、安茂里と若槻の住民自治協議会が主催して行い、新年度の環境部員を中心に毎年更新して延べ250人以上が受講している。 ③2016年から始めたキッズ生ごみ農園クラブは、3家族10人で始めたが18家族38名が登録(内1企業10口含む)し増えている。(年会員制であり1家族が継続更新する期間は2～3年である。) 栽培種類は野菜だけでなく豆類、穀類にも栽培種を広げ、麦ストローの製作や菊芋とソルガムの利用方法を考案中である。また、F1でなく固定種の地産産物を栽培するようにしている。 ④環境教育としての生ごみ削減は、幼少の頃からの生活体験としてみみずコンポストに触れることで、循環型社会を知る機会となるように「みみずの学校」プログラムを実践し始めた。移動可能な小型のみみずコンポスト「金子みみずちゃんの家」を使って、住民自治協議会や子供食堂の催しに出かけ、幼少児家庭に生ごみ堆肥で育てた野菜を配りながら説明している。⑤コロナ感染症対策によって外食機会が減り、内食が増えて生ごみの出る量も増えたので、生ごみの自家処理を試みる若者世代が増えてきた。それと同時に、生ごみの堆肥化とその利用が環境にやさしく健康にも良い生き方であると自覚し始め、生ごみ堆肥で育てた野菜や穀類に注目をするようになった。		
課題	①啓蒙活動としては、これまで行っていた信州環境フェアやながの環境フェアが、コロナ感染症の影響で開催中止か大幅な縮小により、展示・アンケート・生ごみ教室などのデモンストレーションが出来なくなり、一般市民へのアプローチ機会がなくなった。 ②キッズ生ごみ農園クラブで生産した野菜・麦・豆などを、朝市・軽トラ市・フェスタなどで展示販売することがコロナ感染症の影響で一部しか出来なかった。(販売することでチームの自主財源確保になっている)		
課題	①家庭系生ごみのうち食品ロスについては、消費期限がまだあるものは生ごみではなく食品として活用するために、子ども食堂などで利用するためのシステムが必要である。②長野市の推奨する生ごみの自家処理は、生ごみ堆肥化などで市民に助成しているが、減量に繋がっているのか検証する必要がある。③事業系生ごみの減量には、どのようなアプローチが適当かを模索している。		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	生ごみ削減・再生利用プロジェクト		
理想の街	1 市民一人一人が、地球環境をより良い形で後世に伝えるため、家庭系及び事業系生ごみの削減・再生利用に努め、CO2の排出量が以前と比べ大幅に減っているまち 2 多くの市民が、地域ごとに生ごみの減量化・再生資源化に取り組み、有効活用しているまち 3 生ごみは、可燃ゴミに出さずリサイクルされ、可燃ゴミに占める生ごみの量は大幅に減少し、食と農の循環を大切にしているまち		
目標	家庭系生ごみの有効な自家処理方法を策定し実践する。 ①生ごみ堆肥化基材「ビタピー5」の活用を通じて、生ごみの堆肥化とその利用が有効であることを市内全域に広げる。 ②若者世代が生ごみの堆肥化に取り組みたいようなプログラムを開発し、環境活動として継承する楽しみを模索する。 子育て家族の市民を中心に生ごみ堆肥化とその利用を呼びかけ実践する。 ①キッズ生ごみ農園クラブの家族会員を30家族に増やし、会員とスタッフが協働で生ごみ堆肥と野菜など50品種以上を生産し分け合う。生ごみと一時生成物の受け入れ量を増やし、生ごみ堆肥の生産量8000を目標に、更なる野菜や穀類等の栽培に活用する。 ②ミミズコンポストを活用して生ごみを減らすことを、幼少期から知ってもらうための環境教育プログラムを作成し、保育園や幼稚園で出前講座を行う。		
実行	生ごみ削減・再生利用プロジェクトとその活動を地域住民に呼びかける。 ①生ごみ減量実践講座(生ごみ堆肥化)を安茂里と若槻自治協議会以外の地域にも、ビタピー5を使って設けるよう働きかける。 ②生ごみ削減・再生利用の啓蒙活動を若者世代に繋げるため、各種環境団体のイベントなどに参加して働きかける。 生ごみの堆肥化とその利用方法の実践活動を充実させる ①キッズ生ごみ農園クラブの家族会員を増やすために、幼少児家庭に呼びかけ、生ごみ堆肥と野菜などを生産し分け合う。生ごみと一次生成物の受け入れ量を増やし、生ごみ堆肥の生産を更なる野菜や穀類等の栽培に活用する。 ②子供食堂の運営者に生ごみ堆肥化の活動に参加してもらう。利用者にはキッズ生ごみ農園クラブに加入してもらい、生ごみの堆肥化が食と農の循環であると実感してもらう。		
計画			
画数			
値	指 標	現状:令和3年度	目標:令和8年度
目	プロジェクト参加者数 (年間・延べ人数)	546人	1000人
標	可燃ごみに占める生ごみの割合	38%	35%

これまでの成果		平成29年度～令和3年度	
プロジェクト名	太陽エネルギー普及促進プロジェクト		
理想の街（目標）	資源を大切にし、再生可能エネルギーである太陽エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力あるまち		
数値目標達成状況	指標	目標値	令和3年度実績値
	プロジェクト参加者数（年間・延べ人数）	100人	
	イベントや出前講座数	2件	
活動実績	活動休止中のため、実績が無い状況です。休止の理由は、国内設置例から「太陽光発電」への否定的な見方も、世間には発生している点が大きいと考えます。		
できなかったこと	活動休止中のため、チームとしての目標がもてない状況であった。		
課題	太陽光発電を含め、国内設置事例から再生可能エネルギー活用の否定的な見解が世間一般に強くある点について、避けずにチーム内で意見交換し、チームとしての活動目標を意識的に持つていくことが必要。		

今後の展望		令和5年度～	
プロジェクト名	太陽エネルギー普及促進プロジェクト		 
理想の街	資源を大切に、再生可能エネルギーである太陽エネルギーを活用した、地球環境保全に配慮した持続可能で活力あるまち		
目標			
行動計画	<p>[目標] 本プロジェクトの活動再開と計画と実践 長野県では気候危機カーボンゼロを課題とし、屋根太陽光発電設備普及に尽力している事も考慮に入れながら、チームとしての目標・課題・活動を意識し進める。</p> <p>① チーム内での活動目標意見交換 ② チーム活動目標の設定 ③ 活動目標に基づく具体的取り組みの実行</p>		
数値目標	指標	現状: 令和3年度	目標: 令和8年度
	活動再開		会議が定期的に行われ、イベント・活動を行っている。 延べ100人

第3章 パートナーシップで進める

1 ながの環境パートナーシップ会議の推進体制

アジェンダ 21 ながのー環境行動計画ー2023 を効率的に推進するために、次の体制で役割分担していきます。

●総会（最高意思決定機関）

事業計画及び収支予算、事業報告及び収支決算、及び重要な事項等全体に関わる事項について決定します。

●理事会

ながの環境パートナーシップ会議を代表し基本事項を協議し決定します。

●プロジェクトチーム

会員により構成し、リーダーを中心に具体的な計画に基づきプロジェクトに取り組み、「理想の街」の実現を目指します。

●事務局

総会、理事会、各プロジェクトの活動を支援し、活動を広報するとともに、行政との連携を図ります。

【資料】

資料1 策定の経過

資料2 役員名簿（本計画策定時）

資料3 2030 アジェンダ

資料1 策定の経過

No.	開催日	会議など	主な内容
2022(令和4)年			
1	8月12日(金)	第2回理事会	見直し方針の確認
2	9月29日(木)	理事・プロジェクトリーダー合同会議	素々案協議 見直し方法の検討
3	10月28日(金)	第4回理事会	素々案協議
4	11月21日(月)	第5回理事会	素々案協議
5	12月	各チームへ見直し依頼	行動計画等見直し作業
6	12月22日(木)	第6回理事会	素々案協議
2023(令和5)年			
7	1月19日(木)	第7回理事会	素々案協議
8	2月16日(木)	第8回理事会	素々案決定
9	5月	会員、パブリックコメント	
10	6月	第1回理事会	素案決定
11	6月29日(木)	令和5年度総会	決定予定

資料2 役員名簿（見直し策定時）

役職	氏名	所属プロジェクトチーム等
代表理事	河西 弘明	生ごみ削減・再生利用
副代表理事	赤羽 和春	市民の森づくり
副代表理事	倉又 保雄	松代オオムラサキの里
理事	有金 市隆	生ごみ削減・再生利用
理事	安塚 譲治	長野市環境部長

資料3 2030 アジェンダ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

SDGs17のゴール

ゴール1 (貧困)	: あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
ゴール2 (飢餓)	: 飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
ゴール3 (健康な生活)	: あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
ゴール4 (教育)	: 全ての人々への包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯教育の機会を促進する
ゴール5 (ジェンダー平等)	: ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女子のエンパワーメントを行う
ゴール6 (水)	: 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
ゴール7 (エネルギー)	: 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する
ゴール8 (雇用)	: 包摂的かつ持続可能な経済成長及び全ての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク (適切な雇用) を促進する
ゴール9 (インフラ)	: レジリエントなインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの拡大を図る
ゴール10 (不平等の是正)	: 各国内及び各国間の不平等を是正する
ゴール11 (安全な都市)	: 包摂的で安全かつレジリエントで持続可能な都市及び人間居住を実現する
ゴール12 (持続可能な生産・消費)	: 持続可能な生産消費形態を確保する
ゴール13 (気候変動)	: 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
ゴール14 (海洋)	: 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
ゴール15 (生態系・森林)	: 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・防止及び生物多様性の損失の阻止を促進する
ゴール16 (法の支配等)	: 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進、全ての人々への司法へのアクセス提供及びあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度の構築を図る
ゴール17 (パートナーシップ)	: 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

(以上 IGES 仮訳)

「169のターゲット」 (URL : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>)

このアジェンダは、貧しい国、豊かな国などを含め、あらゆる国々の行動を求めます。

また、貧困に終止符を打つためには、経済成長を実現し、教育や保健、社会保障、雇用機会を含む幅広い社会的ニーズに対応する一方で、気候変動や環境保護にも取り組む計画が必要だという認識を示しています。さらに、不平等やインフラ、エネルギー、消費、生物多様性、海洋、産業化といった問題も取り扱っています。